

令和6年度 岩手県立農業大学校主要課題達成状況(年間)及び自己評価結果

【自己評価結果の基準】 A(良い) B(概ね良い) C(やや不十分) D(不十分)

項 目 (何を)	R6 達成レベル・目標 (いつまでに、どういう状態にするか)	達成状況	R6 達成手段・方法 (重要なプロセス・チェックの方法など)	R6自己評価結果
1 新規就農者の確保・育成				1 新規就農者の確保・育成 <u>A</u> 評価 入学者数の増加、学力向上、資格取得や就農・就職支援への目標を概ね達成していることからA評価とした。
1.1 意欲ある学生の確保	1 学生の確保 ・令和 7年度本科入試志願者 70名(前年44名) ・令和 7年度本科入学者 60 名(前年40名)	・令和7年度本科入試志願者数 60名 ・令和7年度本科入学者数 農産園芸学科 42名 畜産学科 14名 合 計 56名	① 高校訪問による募集活動 ・県内高校及び実績校等への訪問(県内全校訪問、随時) ・県外農業系高校への訪問の継続(青森、秋田、宮城) ② 各種説明会出席及び教職員との交流	1.1 意欲ある学生の確保 A 評価 学生の募集活動や学校情報の発信など学生確保に鋭意取り組み、オープンキャンパス申込者数は昨年参加人数より17名増加した。その結果、入学者数は過去6年のうち最も多い56名となり、A評価とした。今後は特に普通科高校や県外高校への働きかけの強化、学校情報発信の強化、施設整備により、学生数確保を進める。 ・学校アンケート結果 (1-1)学生募集活動 A (1-2)諸経費の額等 A
1.2 応用力を磨く教育の提供	1 実践的農業技術と経営基礎知識の理解促進 (1) 実践的な資格等の取得 【共通】 学生に対する取得者の割合 ① 日本農業技術検定取得者 40%(前年29%) ② 大型特殊免許 50%(前年48%) ③ けん引免許 25%(前年21%) 受験者に対する取得者の割合 ④ 日商簿記検定3級 30%(前年0%) 【農産園芸学科】 ① フラワー装飾技能証(実技) 合格率 100 % 【畜産学科】 ① 畜産学科2年生全員が家畜人工授精師免許を取得 ② 畜産学科2年生の内、受験希望者が家畜体内受精卵移植師免許及び2級認定牛胴蹄師認定試験に合格 (2) 学科ごとの取組目標 【農産園芸学科】 ① 主要品目の栽培管理技術向上(1年生) ・プロジェクト研究の実施、発表 実施学生の割合 100 % ・各専門科目の評価 良以上70% ② 経営基礎知識の理解促進(2年生) ・経営関係科目の評価 良 70% ・卒業論文成績評価 良以上80%	【共通】 学生に対する取得者の割合 ① 日本農業技術検定取得者(高校在学中の取得者を含む。) 2・3級取得率 48%(44名/91名)うち2級7名 ② 大型特殊免許 55%(50名/91名) (内訳)大特24名、大特(農耕用)26名 ③ けん引免許 30%(27名/91名) (内訳)けん引7名、けん引(農耕用)20名 ④ 日商簿記検定3級 0% 【農産園芸学科】 ①フラワー装飾技能証取得率 0 % 【畜産学科】 受験者に対する取得者の割合 ① 全学生が受験し全員合格 ② 受精卵移植師:全学生が受験し全員合格 2級胴蹄師:①の講習会に重複し受験見送り 【農産園芸学科】 ① 全学生がプロジェクト研究に取り組んだ。 100% 良以上 93.1% ② 授業のほか、事例研究や卒業研究の取り組みにおいて経営管理の理解促進を図った。 ・経営管理の成績評価 良以上97.4% ・卒業論文成績評価 良以上89.5%	【共通】 ① 日本農業技術検定 ・受験機会の確保(7月、1月校内会場で実施) ・受験対策(希望者に対する過去問の提供) ②大型特殊免許、③けん引免許 ・受験機会の確保 ・受験時期の分散 ・受験対策 説明会、実技練習、練習精度の向上 【農産園芸学科】 ① フラワー装飾 課外授業(5〜6月、16 回、60hr.) 【畜産学科】 ① 岩手県が開催する家畜人工授精に関する講習会を受講 一部、畜産概論や家畜繁殖などの科目は通常授業で実施 ② 岩手県が開催する家畜体内受精卵移植に関する講習会(本校で開催)を受講 日本装胴蹄師協会が開催する 2級認定牛胴蹄師認定講習会を受講。専攻実習Ⅱにおいて胴蹄実習を実施 【農産園芸学科】 (農産) ① ・水稲の栽培管理と生育調査手法指導 ・水稲収量、玄米品質および解析手法の指導 ・プロジェクト研究内容を取りまとめたパワーポイント作成 ② ・卒業研究とりまとめにおいて経営評価について指導 ・流通や概算金、米価高騰に興味を示す	1.2 学力の向上とスキルアップ A 評価 資格取得については、日本農業技術検定及び大型特殊並びにけん引免許は前年取得率を上回った。フラワー装飾技能証取得率は0%となった。 卒業研究は全員が成果のとりまとめと発表まで実施した。東日本農大プロジェクト発表会・意見発表会出場のほか、ヤンマー学生懸賞作文において銀賞、県農林水産部政策提案型調査研究コンテストにおいて、学生グループ最優秀賞を受賞、みどり学生チャレンジでは東北準グランプリ賞を受賞するなど、課題解決能力や実践的なスキルの向上に成果があった。 また、3名が4年制大学への編入を実現した。 以上のとおり、学力向上とスキルアップへの取組の成果が認められたことから、A評価とした。 ・学校アンケート結果 (1-3)資格取得の指導体制について、カリキュラム体系的位置づけ A 【農産園芸学科】 各経営科が各々の手法により基礎知識の習得や経営管理手法の理解促進に努め、ほぼ目的を達することができた。(A)

項 目 (何を)	R6 達成レベル・目標 (いつまでに、どういう状態にするか)	達成状況	R6 達成手段・方法 (重要なプロセス・チェックの方法など)	R6自己評価結果
	【畜産学科】 ① 酪農 経営目標:販売額20,498千円の達成 作業マニュアルや衛生管理文書等の沿った飼養管理、搾乳の実践による、出荷乳量の確保及び高品質な生乳の生産 ② 肉畜 経営目標:販売額6,759千円の達成 作業マニュアルや衛生管理文書等の沿った飼養管理、疾病の発生予防、子牛の事故防止	【畜産学科】 ① 酪農 販売額:14,924千円(未達成) (1年生) 家畜当番作業マニュアルに沿った飼養管理、搾乳方法等を習得。 (2年生)衛生管理文書等(特に飼養衛生管理基準の順守、特定事項の備え、HACCP計画及び教育・訓練計画)に沿った飼養管理を習得。 ② 肉畜 販売額:6,596千円(未達成) (1年生) 家畜当番作業マニュアルに沿った飼養管理、肥育方法等を習得。 (2年生)衛生管理文書等(特に飼養衛生管理基準の順守、特定事項の備え、HACCP計画及び教育・訓練計画)に沿った飼養管理を習得。	(野菜) ①・専攻実習での栽培管理技術及び生育調査方法の指導 ・果菜類、葉菜類、根菜類と幅広い野菜の土づくりから収穫までの理解が深まった ②・卒業研究を通じた経営試算方法の習得 ・経営を学べる事例研究の実施 (果樹) ①・りんご生育、生態調査手法の指導 ・専攻実習での果樹管理技術指導 ・生育、生態調査結果のポスター発表(農大祭) ②・経営的な視点をもった考え方が出来るようになった (花き) ①・主要品目の栽培管理、播種、育苗、鉢上げ等について作業の理解を深めた ②・経営的な視点をもった考え方が出来るようになった 【畜産学科】 専門科目の履修と単位習得 ・家畜飼養管理Ⅰ・Ⅱおよび専攻実習Ⅰ・Ⅱで飼養管理の知識と技術を指導 ・農場HACCPシステムへの理解醸成と作業分析シートに基づく作業手順を指導 ・飼養管理の理論と実習 ・衛生管理文書等(特に飼養衛生管理基準の順守、特定事項の備え、HACCP計画及び教育・訓練計画)に沿った飼養管理の指導。	【畜産学科】 酪農において販売額が目標を下回った原因は飼養頭数の減、肉畜において販売額が目標を下回った原因は子牛価格の低迷による。専門科目の履修、単位習得については達成済である。(A) ・学校アンケート結果 (1-4)事例研究・農家派遣実習等の教育体制整備 A
	2 課題解決能力の向上 【農産園芸学科】 ① 課題解決に向けた卒業研究計画の作成(1年生) ・2月末までに案作成、3月末までに完成 100 % ② 卒業論文の完成(2年生) ・成績評価 良以上 80 % (前年度の成績を参考に設定) ・東日本発表会への出場 2名以上(農産園芸)	【農産園芸学科】 ① 全員が3月までに卒業研究計画を作成した。 ② 全員が締め切りまでに卒業論文を完成させた。成績は良以上89.5%。 東日本発表会への出場3名全員が農産園芸学科学生となった。	【農産園芸学科】 (農産) ①・研究課題設定のための情報収集指導(農家派遣実習や帰省時)、プロジェクト研究とりまとめを通じデータ集計の指導、計画作成指導(随時)、科内計画検討会(2月) ②・研究実施指導(随時)、研究とりまとめ指導(随時)、中間検討会(7月)、科内検討会(12月) (野菜) ①・課題選定に向けた品目希望調査の実施(12月～1月)、計画作成指導(12月～3月) ②・研究実施指導(随時)、発表資料作成、方法指導(随時) 中間検討会(7月)、科内検討会(12月) (果樹) ①・研究課題設定に向けた情報収集指導(随時)、データ集計グラフ作成の基礎指導(随時)、計画作成指導(随時) ②・研究実施指導(随時)、研究とりまとめ指導(随時)、中間検討会(10月)、科内検討会(12月) (花き) ①・テーマ設定に向けた情報収集等指導(1年生 9～12月)、計画作成指導(1年12～2月)、試験区設置指導(1年3月～2年6月) ②・調査手法及びデータ集計指導(2年生 3～10月)、結果の分析と考察、集録作成指導(2年生 11～1月)	【農産園芸学科】 卒業研究計画作成、卒業論文完成とも目標を達成し、内容もおおむね満足できる結果となった。(A)

項 目 (何を)	R6 達成レベル・目標 (いつまでに、どういう状態にするか)	達成状況	R6 達成手段・方法 (重要なプロセス・チェックの方法など)	R6自己評価結果
	【畜産学科】 ① 酪農・和牛一貫経営の現状理解とプレゼン手法の習得(1年生) ・ワイルドカップ 2024学生グループ部門最優秀賞等 ② 課題解決力の習得とプレゼン手法の習得 1年生:全学生が卒業研究課題計画を発表 2年生: ・東日本農業大学校等プロジェクト発表会出場1名以上(畜産) ・全国農業大学校等プロジェクト発表会出場 1名以上(畜産)	【畜産学科】 ① ワイルドカップ2024において、学生グループ部門最優秀賞を受賞 ② 全員が卒業研究課題に取り組み12月に校内発表 「みどり戦略学生チャレンジ」の取組みにおいて、1名が東北準グランプリを受賞	【畜産学科】 ① ワイルドカップ 2024 への参加(1年生) ・2021～2023 本校入賞作品の学習(5月) ・発表までのプロセス習得(6月) ・タイトル決定、スライド作成(7月) ・ワイルドカップ 2024 出場(8月) ② プロジェクト発表会対策 ・1年生 卒業研究課題の選定(11 月までに)、卒業研究計画発表会(3月) ・2年生 卒業研究の実施・まとめ(4月～11 月)学科・校内発表会 12月。東日本プロジェクト発表会(1月)全国プロジェクト発表会(2月)	【畜産学科】 校内だけでなく県農林水産部が主催するワイルドカップにも参加したことで、農業が抱える課題への学生の理解促進、課題解決能力及びプレゼンテーションスキルが大幅に向上。(A) ・学校アンケート結果 (1-5)課題解決能力の向上に効果的な指導 A
	3 先進的な農業技術に対応した教育の充実 【農産園芸学科】 ① ASIAGAP の理解促進 ・ASIAGAP 認証の維持 ・「GAP 概論」の成績評価 良以上 80 % (1年生) ② スマート農業の理解促進 ・「スマート農業」の成績評価 良以上 80 % (2年生) 【畜産学科】 ①ファームノート(ICT技術)活用方法の充実 学生の活用率 100% ②農場HACCP、畜産GAPの理解 ・学生の理解度の確認 理解度80%以上 ・圃場管理職員が本校の農場HACCPと畜産GAPの取組を正しく理解する	① GAP概論の評価は良以上100%であり、理解が図られた。学生及び職員の取組の結果、ASIAGAP認証が維持された。 ② スマート農業の成績評価は良以上86.8%。 【畜産学科】 ① 概ね達成できた。 ② 概ね達成できた。	① ・職員のASIAGAP 取組の理解(通年) ・審査に向けた取組内容書類確認 ・職員による ASIAGAP による取組の実践(通年) ・内部監査の実施(8月) ・学生への ASIAGAP 取組の説明(マニュアル配布と指導(4月) ・学生への作業、体調確認掃除記帳指導(随時) ・学生への各種手順書配布と指導(随時) ② ・専攻実習、スマート農業でのスマート農業技術の紹介 ・新 KSAS の活用法、作業記録法の 指導(農産) ・環境制御技術について詳細に説明、動画視聴(野菜) ・自動操舵トラクタ操縦(農産、野菜) ・無人防除機、ドローン等実演見学(果樹) ・事例研究実施(各経営科) 【畜産学科】 ①活用技術の習得 ・1年生 専用アプリのインストール(4月) 活用方法の習得(4～5月) 2年生 飼養管理において活用(随時) 専攻実習Ⅰ及び専攻実習Ⅱにおいて活用率判定 ②・GAP概論、家畜飼養管理Ⅰ、家畜衛生及び専攻実習Ⅰの履修により知識を習得 ・圃場管理職員は、1回/年の研修会開催により理解醸成(5月)	授業のみならず、整理整頓や記帳などの実践指導が理解促進に有効であったと考えられる。(A) スマート農業に関心の高い学生が多いことから、理解も深まりやすいと考えられる。(A) スマート技術を活用した家畜管理に学生は早期に慣れて活用実践している。 学生は、農場HACCPや畜産GAPは講義での知識の習得に加え、実習や飼養管理当番により実践し理解を深めた。 職員は学科内HACCP会議を毎月開催し取組みの検証を行ったほか、検証結果のOJT研修等で理解を深めた。(A) ・学校アンケート結果 (1-5)課題解決能力の向上に効果的な指導 A
	4 学習支援の充実 ① 基礎学力の養成 ⇒1 年終了時までに ・課外授業出席率 80% ② 農業分野で必要な数的処理力の養成と定着⇒卒業までに ・卒業論文の成績評価 良以上 80% ③ 進路実現に向けた学力の定着 ⇒編入学試験までに ・4年制大学編入学合格率 100%(前年 50%)	① 概ね達成できた(出席率78%) ② 達成できた(農産園芸学科 良以上89.5%、畜産学科 良以上100%) ③ 4年制大学編入学合格率 100%(4名合格/4名中。うち1名辞退のため3名編入学)	① 初年度教育の支援 ア 基礎学力試験の実施(4月 学力把握) イ 課外授業の実施(数的処理力養成、5～6月、5回) ウ レポート作成指導(「農業基礎」ほか、随時) ② 農業分野への就業に向けた学力定着の支援 ア 専門知識の定着に向けた演習指導(日本農業技術検定)と検証 イ 数的処理力指導(濃度計算、施肥設計、飼料設計等)随時 ウ データ処理指導(卒業研究等を中心に) ③ 大学編入学希望者への支援 ア 編入学にかかるガイダンス(1年生対象、6月中旬) イ 英語・小論文対策(1年生対象、20回程度) ウ 面接指導(2年生対象、志望大学に応じて随時)	課外授業の実施により、学生の基礎学力が養成された。また、4年制編入学試験に4名が合格し、うち3名が編入した。(A)

項 目 (何を)	R6 達成レベル・目標 (いつまでに、どういう状態にするか)	達成状況	R6 達成手段・方法 (重要なプロセス・チェックの方法など)	R6自己評価結果
1.3 豊かな人間性の涵養	1 組織的な自主活動と協働の促進 (1) 学生自治会活動の活性化と自治意識の醸成 ・自治会行事の運営指導 年間活動計画の作成 ・他農大生との交流 1回(東日本球技大会 等)	・4月に計画作成し、概ね計画的に事業実施できた ・東日本親善球技大会(5/28-29)に学生を参加誘導し、交流が出来た	(1) ・自治会主催行事の運営指導(年間計画、役員会開催計画作成) ・自治会予算の自主的執行指導 ・クラブ等活動促進 (2) ・各委員会による事業の自主運営指導 ・他農大学生との交流促進	1.3 豊かな人間性の涵養 A 評価 学生自治会の取組を支援し、行事や学生生活改善に取り組むことができたことから、A評価とした。 ・学校アンケート結果 (1-7)自治会活動支援体制 B
	2 教育相談体制等の強化 学生支援相談チーム(教育部長直轄)が常時機能	・カウンセラーの守秘義務の範囲内で担任との情報共有がなされるなど、概ね達成できた。 ・支援が必要な学生について、必要に応じ相談体制を組み立てるなど概ね達成できた。	①職員のスキルアップのための研修とOJT ②スクールカウンセラー相談日の設置(年間35日)及び周知 ③担任会議の早期開催による情報共有 ④就職支援相談員による進路の個別面接指導 ⑤学生支援相談チームによる情報共有及び継続的支援 ⑥支援の評価・改善	
1.4 就農及び農業関連企業・団体への就職推進	1 進路の早期決定 ① 進路希望調査を実施 3回	達成できた。	① 進路希望調査の実施(4月、7月、12月)	1.4 就農及び農業関連企業・団体への就職推進 A 評価 学生及び父母等との個別相談実施などにより希望進路を的確に把握し、支援体制を組んで取組んだ結果、51名中50名の進路を決定することができたことから、A評価とした。 ・学校評価アンケート結果 (1-8)進路指導体制 A
	2 就農促進 ① 就農希望学生の就農計画策定 100% ⇒2年生2月までに ※1、2年とも夏休み前後の進路希望調査結果を基準とする。 ② 就農率(自家就農+研修+農業法人就職) 50%	① 達成できた。 ② 概ね達成できた。 就農率(自家就農+研修+農業法人就職) 43%(22/51)	① 就農希望学生の指導経緯の情報共有 ② 就農希望学生に対する就農計画作成指導及び関係機関等との連携強化 ③ 就農準備資金の活用による就農支援 ④ 地域懇談会(優良農業者や地域機関と情報交換、研修等の実施)への出席(1年希望者17名) ⑤ 雇用就農希望学生向け「オープンファーム」及びインターンシップへの参加誘導(全校) ⑥ 雇用就農、農業団体希望学生向け農大OBからの説明会「進路応援ゼミ」の開催(11月) ⑦ 一関新規就農PRキャラバン隊対応	
	3 就職指導の強化 就職希望者の内定率 100%(前年100%)	就職希望者の内定率97.6% (内定者41名/就職希望者42名)	① 就活ゼミの実施(1年生7回、2年生課外3回) ② いわて就職マッチングフェアへの参加促進 ③ 個別面談による進路決定、決定進路に向けた書類、面接指導 ④ 雇用就農希望学生に向け、インターンシップへの参加を誘導 ⑤ 農大OBから在校生へのメッセージ「進路応援ゼミ」(11月)の開催	
	4 進路開拓への取組強化 団体組合8社以上、民間25社の訪問	概ね達成できた。 組合、団体9団体 民間企業24社	① 企業、事業所等訪問先の拡大(特に農業法人) ・6月中に団体組合9社、7月中に民間24社を訪問 ・個人情報であることも踏まえつつ、離職状況も把握 ② 求人企業の確保(農業法人含む) ・オープンファームへ参加した企業にも積極的に訪問し、企業状況と学生のマッチングを促進	

令和6年度 岩手県立農業大学校主要課題達成状況(年間)及び自己評価結果

【自己評価結果の基準】 A(良い) B(概ね良い) C(やや不十分) D(不十分)

項 目 (何を)	R6 達成レベル・目標 (いつまでに、どういう状態にするか)	達成状況	R6 達成手段・方法 (重要なプロセス・チェックの方法など)	R6自己評価結果
2 多様な担い手の育成				2 多様な担い手の育成 <u> A </u> 評価 社会情勢や前年までの要望等に応じて研修を実施し、研修回数、研修受講者及び花きセンター来場者とも概ね目標達成できたことから、本年度の自己評価をAとした。
2.1 農業の担い手育成	1 就農希望者・新規就農者の育成 ① 新規就農者研修 【入門コース(野菜、花き)】 野菜・花きに関する基礎的知識や技術の習得 ・野菜コース:修了証書授与率80% ・花きコース:修了証書授与率80% ※基準は、各コースとも出席率70%以上 ② 新規就農者研修[基礎コース] 就農や営農に必要な基礎的知識や技術の習得と営農上の諸課題解決能力の向上 修了証書授与率100% ※基準は、出席率70%以上	① 新規就農者研修 【入門コース(野菜、花き)】 ・野菜コース修了証書授与率81%(35/43名) ・花きコース修了証書授与率100%(5/5名) ② 新規就農者研修[基礎コース] 修了証書授与率100%(19/19名)	① 新規就農者研修 【入門コース(野菜、花き)】 基本的管理・知識習得を進める講義・実習を実施 ・野菜コース(定員80名) 講義10回、実習25回(5～10月) 夏季の猛暑対策として実習を午前を実施 ・花きコース(定員5名) 講義10回、実習20回 既存パイプハウスを、研修生専用として活用 ② 新規就農者研修[基礎コース] 講義、演習・実習、経営事例研修を実施(全11回、35日) ・研修生個々の営農状況や就農準備状況に応じた課題解決支援 ・研修生個々の状況と変化の記録と共有	受講者アンケート結果 1 新規就農者研修基礎コース 受講者のアンケートから、講義・実習の98.2%が役にたったとの評価。 受講者の感想では、幅広い知識を学ぶことができた、他の研修生と有意義な情報交換が持てた、栽培の基礎知識も畑を使った実習体験があり教科書だけでは学べないものも学べた、自分たちでの販売体験も経験できて二重丸でした、経営事例研修で多くの農家の様子を見れたことは貴重だったとの意見のほか、要望として6次産業化についてもう少し学びたかった、環境保全型農業について学ぶ機会、農業機械に触れる機会があると良い等があった。 2 いわてグリーン農業アカデミー 受講者アンケートから、100%の受講生が研修が役立った、わかりやすかったと評価。 受講者からの意見として、本研修で作成した環境負荷低減事業活動実施計画をもとに、みどり認定の認証取得を目指したい、それぞれ専門の講師の話が聞けたのですごく良かった、現場の人達の成功事例、失敗事例も聞けたのが良かった、リモート会場として北上会場が数回でもあったのは助かった、この研修で多くの友人を持つこともでき計画を1つ1つ実践していきたい、などの意見があった。また要望として、毎回、席を変えてくれると、受講生同士の交流の場面が増えると思う等があった。
	2 農業者の知識と技術、経営能力の向上 ① 農業機械の初歩的な操作の習得 (前年9回、36名) ・はじめての刈払機:1回、6名 ・はじめてのトラクタ:4回、24名 ・はじめてのトラクタ作業:2回、12名 ・はじめてのけん引:2回、4～8名 ② トラクタ走行研修 (前年11回、23名) ・大型特殊(農耕用):6回、18名 ・けん引(農耕用):6回、18名 ③ 農業機械技術向上研修 (前年2回、48名) 農作業安全研修の実施 ④ 公開セミナーの開催 8回、延べ470名(定員)(前年8回、283名)	① 農業機械の初歩的な操作の習得 ・はじめての刈払機:2回、12名(計画比200%) ・はじめてのトラクタ:4回、20名(計画比83%) ・はじめてのトラクタ作業:3回、13名(計画比108%) ・はじめてのけん引:2回、5名(計画比63%) ② トラクタ走行研修 ・大型特殊(農耕用):8回、23名(計画比128%) ・けん引(農耕用):6回、14名(計画比78%) ③ 農業機械技術向上研修 ・京田農家組合勉強会(紫波町)2/2(日)22名(講師派遣) ④ 公開セミナーの開催 8回244名 (労務管理21名、GAP23名、スマート農業22名、6次産業化24名、元気の出る農業112名、農業簿記32名、農業関連税務5名、財務分析5名)	① 農業機械の初歩的な操作の習得 ・研修の情報発信を行い、受講者を確保 ・申込者が定員を上回る場合、日程調整し対応 ・「はじめてのけん引」受講者を、「トラクタ走行研修(けん引)」受講へ誘導 ② トラクタ走行研修 ・研修の情報発信を行い、受講者数を確保 ・申込者が定員を上回る場合、日程調整し対応 ③ 農業機械技術向上研修 ・研修を随時PRし募集(12～翌2月) ④ 公開セミナーの開催 ・農業者の発展段階に応じた、経営発展に役立つ講義などを企画実施 ・ホームページ、SNS、チラシなどによる情報発信 ⇒労務管理、GAP、スマート農業(9月、3回) ⇒6次産業化・マーケティング、農業関連税務(10月、2回) ⇒元気の出る農業(11月、1回) ⇒農業簿記、財務分析(12月、2回)	

項 目 (何を)	R6 達成レベル・目標 (いつまでに、どういう状態にするか)	達成状況	R6 達成手段・方法 (重要なプロセス・チェックの方法など)	R6自己評価結果
	3 環境負荷を低減する農業者の育成 いわてグリーン農業アカデミー スマート農業技術を活用した有機農業などの 環境保全型農業実践に向けた知識や技術を 習得 修了証書授与率100% ※単位8割以上取得	① 県北の受講生が多かったことから、 県北及び青森県南の事例研修を設定 ② 受講継続した25名全員が計画を作成 修了証書授与率 100% ※ 2名は営農等の事情により継続を断念 ③ 農業大学校にサテライト会場を設置 (2回) 欠席者等に対しYouTube動画を配信す るとともに、レポート提出により単位を認定	講義、演習・実習、事例研修を実施(全6回、5～1月) ① 研修生のニーズ、状況に対応した事例研修先設定 ② 個々の課題に対応した「環境負荷低減事業活動の実施に関 する計画」作成支援 ③ サテライト会場の設置、欠席時の動画視聴・レポート提出による 単位認定などきめ細かな対応	
2.2 農業に対する 理解の促進	1 園児・児童・中学生の農業への理解醸成 ① 園児・児童コース 動植物を見て、触れて、知ることによる、食 物や農業への理解醸成 10団体、300名 ② 中学生コース 農業体験を通じた、職業としての農業の理解 醸成 3校、120名	① 園児・児童コース ・16団体(計画比160%) 497名(計画比165%) (園児3団体60名、児童13団体437名) ・インスタグラムにより情報発信 ② 中学生コース ・2校(計画比67%)、80名(計画比67%) ・金ヶ崎中1年42名、東陵中3年38名	① 園児・児童コース ホームページやSNSによる情報発信 ② 中学生コース ・ホームページやSNSによる情報発信 ・市町村教育委員会を通じた、県内中学校への周知	
	2 花きに親しむ機会の拡大 ① 花きセンター来場者の増加 年間来場者数17,000名(前年16,442名) ② 花のある暮らしの普及拡大 ・花きふれあい研修受講者数 延べ250名(前年208名)	① 花きセンター来場者の増加 年間来場者数 18,027名(計画比106%) ② 花のある暮らしの普及拡大 ・花きふれあい研修受講者数 延べ349名(計画比140%) コミュニティガーデンコース 95名 寄せ植えコース 91名 クラフトコース 24名 アレンジメントコース 12名 花き栽培体験コース 127名	① 花きセンター来場者の増加 イベント実施による認知度向上と魅力ある展示内容の整備 ・花きセンターまつり(4/19、27)、ラベンダー収穫体験(6/22)、 夏休み子供向け企画(7/30～8/4)、企画展(9/6、7)、シクラ メン販売会(12/6～8)など継続実施 ・露地ほ場(ひまわり、センニチコウなど)、切花温室(トルコギ キョウ、スプレーギクなど)で継続的に観覧可能な花きを展示 ・関係団体(地区センター、蘭友会他)との連携強化 ・ホームページ、SNS、メールサービスによる情報発信 ② 花のある暮らしの普及拡大 花きふれあい研修の充実 ・広報などの情報発信による受講者確保 ・コミュニティガーデンコース:5回(前年6回) ・寄せ植えコース:4回(前年4回) ・アレンジメントコース:1回(前年2回) ・クラフトコース:2回(前年2回) ・花き栽培体験コース:11回(前年11回)	

令和6年度 岩手県立農業大学校主要課題達成状況(年間)及び自己評価結果

【自己評価結果の基準】 A(良い) B(概ね良い) C(やや不十分) D(不十分)

項 目 (何を)	R6 達成レベル・目標 (いつまでに、どういう状態にするか)	達成状況	R6 達成手段・方法 (重要なプロセス・チェックの方法など)	R6自己評価結果
3 農大の機能強化推進				3 農大の機能強化推進 <u> B 評価 </u> 情報発信や地域連携強化、学生からの授業評価については、一定の評価が得られた一方で、施設整備や安全管理に関しては、機械・施設の修繕が予算により最小限に留まり、さらに令和6年7月に発生した敷地内全面停電の復旧に時間を要した。また、寮生活における飲酒・喫煙問題が発生し、自立した生活への支援に課題が残った。 以上により自己評価をBとした。 なお、農大施設整備に向けての課題整理や県への要望は進行中であり、今後施設整備の計画作成に取り組むこととしている。
3.1 情報発信の強化	1 多様な情報ツールを活用した情報発信 (1) イベントでの学習内容紹介 ・学習内容や成果の展示(フラワーデザイン 含む) 2件以上 ・農大祭での対面販売の実施 1 回 (2) 本校の知名度向上と魅力の発信	(1)農大祭:各経営科実施 学習展示:農大祭パネル作成、フラワーデザイン展示等実施 (2)各情報ツールにより順調に情報を発信 ・Instagram フォロワー:1,305人(前年比+721人) 投稿回数:373回(前年比+51回) ・ホームページ定期更新11回投稿 ・農大つうしん4回発行 ・玄関での活動紹介掲示14回 ・農大祭での活動紹介 2日開催(10/26、27)	(1)・農大祭での対面販売における商品準備、販売方法指導 ・プロジェクト研究の実施、取りまとめ、展示手法指導 ・フラワーデザイン展示 指導(入学式・卒業式等行事) (2) 情報ツールを活用した情報発信 ・Instagram(facebook)への掲載 フォロワー数増、投稿数300回以上 ・Homepageの定期更新(随時) ・農大つうしんの発行(4回) ・玄関での活動紹介掲示(12回) ・農大祭での活動紹介(1回)	・目標を上回る6件の取組を実施した。
	2 地域との連携強化 地域住民との交流 ・地域と連携した取組の実施 4 件以上	地域と連携した取り組みを6件実施した。 ・ジェラート商品開発(果樹卒業研究) ・イオン江釣子店への店頭販売用出荷(野菜、花き) ・花きセンターシクラメン販売会における地域住民との交流 ・産直ろくちゃんとの連携 ・金ケ崎町立第一小学校との連携 ・金ケ崎町北部センターとの連携	・金ケ崎町のジェラート店と連携した新商品開発(果樹) ・イオン江釣子店への店頭販売用出荷(野菜、花き) ・花きセンターシクラメン販売会における地域住民との交流(花き) ・産直ろくちゃんのイベントプレゼント用に花壇苗を販売提供(花き) ・金ケ崎町立第一小学校の花育活動(花き) ・金ケ崎町北部センターの花壇用苗育苗及び花壇植え(花き)	
3.2 外部評価による改善	1 学校評価結果の活用による学校運営の改善 外部評価懇談会での意見を翌年度業務方針に反映。	・外部評価懇談会(7/10)実施 ・学科、委員会ごとに、外部評価懇談会での意見を反映させ翌年度業務方針を作成(2～3月)	・翌年度業務方針作成時(2～3月)に、外部評価懇談会での意見を反映させるよう各科に依頼。	・学校評価アンケート結果 (3-1)カリキュラム編成 A (3-2)研修、指導力向上の取り組み B
3.3 教職員の能力向上	1 職員研修等によるスキルの向上	・概ね達成できた	・校内授業見学会(5月) ・高校授業参観(5月) ・教育指導スキルアップ研修会(11月)	
	2 講義資料の共有化 ・外部講師及び職員へ周知され、講義資料が蓄積される。	・外部講師科目を中心に電子化済 ・担任会議等で周知	・外部講師及び職員へ周知 周知:職員全体会議(4月) 点検:定期試験確認時期(9月・2月)に実施	・学校評価アンケート結果 (3-1)カリキュラム編成 A
	3 授業評価結果の活用 ・授業実施内容の質的向上による学生の授業理解度の向上。 ・授業評価における学生の回答「満足している」の通年集計 70%(前年度95%)	・授業評価アンケートを実施(9月、2月)、結果を職員にフィードバックし、必要に応じ教育部長による職員面談を実施。 ・授業評価アンケート結果「満足している」97.0%	①授業評価の実施(年2回、前期・後期) ②評価結果に基づく講師との個別面談とフォローアップ・職員研修への参加誘導(通年・随時) ③科目担任・外部講師との意見交換(通年・随時)	

項 目 (何を)	R6 達成レベル・目標 (いつまでに、どういう状態にするか)	達成状況	R6 達成手段・方法 (重要なプロセス・チェックの方法など)	R6自己評価結果
3.4 効率的な施設 管理と整備の推進	1 大規模施設整備計画の見直しと整備の推進 (1) R7 大規模施設整備計画の見直しと予算要求(7～10月) 研修館改修工事費再要求 (2) 大規模施設整備計画の実施 寮エアコン整備工事実施	(1)概ね達成できた (2)概ね達成できた	(1) 研修館空調設備更新工事の予算確保 (2) 建築住宅課の協力を仰ぎながら、7年度までの工事を2件発注。	・学校評価アンケート結果 (3-3) 施設設備の整備(教育的見地) B (3-4) 施設設備の整備(安全的見地) B
	2 施設修繕箇所の把握と適切な安全対策の実施 ①岩手県公共施設個別施設計画の更新(再掲) ②安全管理委員会による修繕箇所等の把握と対策の実施(7月、11月)	施設の老朽化に伴う維持管理に対応したが、件数が多く予算確保が課題。	①各施設の構造や主な設備概要及び修繕箇所等の資料として活用 ②管理チェックシートによる安全点検(自己点検、実地点検)	
	3 修繕経費の予算確保 (1)需用費の内訳予算額を見直し修繕費用を捻出	突発的な施設設備障害等について、執行協議を行い補正予算による予算確保を行ったが、件数が多く対応に苦慮した	(1) 需用費の内訳予算額を見直し修繕費用を捻出 ①光熱水費の節約取組を促進 ②光熱水費執行状況の見える化(定期的に周知) ③利用施設の集約(冬期間の使用禁止)による、光熱水費の節約	
3.5 危機管理体制の 確保	1 安全・衛生管理の実施 (1)安全管理点検委員会 (2)職員衛生委員会の開催 ①衛生委員会(6月、2月) ②救急救命講習の実施(8月) ③健康推進事業(10月) ④職場安全巡視点検	(1)概ね達成できた (2)概ね達成できた	(1)安全管理点検委員会 (2)職員衛生委員会の開催 ①タイムリーな内容による委員会開催 ②学生の長期休暇等を利用した講習会の開催 ③受講者のニーズに即した健康事業の開催 ④学科はGAPにより実施。研修科、花きセンター及び事務局は安全管理委員会で実施。	・学校評価アンケート結果 (3-4) 施設設備の整備(安全的見地) B
	2 災害に強い体制の維持 (1)災害即応体制の維持 ①自衛消防隊編成職員の確認(4月) ②実情に合った訓練内容・参加者の選定(4月) ③非常連絡訓練の実施(4月、10月) (2)学生による自主防衛組織体制の構築 ①学生寮自営消防隊を組織し、防災体制を構築した消防訓練の実施	(1)概ね達成できた (2)概ね達成できた	(1)災害即応体制の維持 ①業務内容の明確化 ②当直専門員及び専任舎監の参加 ③非常招集体制の整備 (2)学生による自主防衛組織体制の構築 ①学生自治会による防災体制の構築	
3.6 全寮教育の改 善の検討	1 全寮教育の改善の検討 (1)寮運営委員会活動の活性化 ・寮運営委員会の開催支援 3回 (2)自立生活の確立 ・重点清掃指導 6回	(1)それぞれ予定どおり実施済み (2)ガイダンスに合わせて実施(敬明)、前記に加え定期的に実施(清和)	(1)・1年生のゴミ出し、清掃の習慣づけの検討(4月) ・大掃除前の寮掃除重点の打合せ(GW前等5回) ・洗濯機等掃除器具の使用状況の打合せ(5回) (2)・喫煙・飲酒状況の寮内抜打ち検査の実施(奇数月5回) ・保健関係職員による講義(1回) ・1年生への在寮札の意義の啓蒙(4月～6月)	・学生自治会、寮運営委員への随時適切な指導を行った。しかし、寮共同スペースの使用ルールの遵守が不十分であったり、飲酒・喫煙に係る学生の問題行動事案も発生し、課題が残ったことからB評価とした。 ・各事業は概ね予定どおり実施されたが、交通事故ゼロには至らず、今後も引き続き取組みが必要であることからB評価とした。 ・学校評価アンケート結果 (3-4) 施設設備の整備(安全的見地) B (3-5) 防災体制 A
	2 交通安全・事故防止 (1)交通安全・事故防止啓発 ・交通安全研修実施 2回 (2)駐車場・駐輪場の適正使用 ・駐車場点検 2回	(1)全校ガイダンスに合わせて実施 (2)計画的に実施済み	(1)・交通安全研修(ガイダンスに併せて実施) DVDの視聴、警察職員による講義 (2)・駐車場・駐輪場の使用状況点検 ・駐車場・駐輪場の環境整備指導(随時)	